

北九州 Z-Times

2026
3月号
March

「日本一若者を応援するまち」を掲げる北九州市Z世代課は「何かに挑戦したい」「一歩踏み出したい」と思っているZ世代を対象に、『Z世代チャレンジ! in 北九州』を実施しました!



プログラム概要
主催：北九州市
運営：Earth hacks 株式会社
場所：あるあるCity7階 大ホール ほか 北九州市内
期間：2025年9月（アイデアコンテスト）、
2025年10月～2026年3月（実装）、
2026年3月（振り返り交流会）
人数：34名（3～4名×9チーム）
参画企業：TOTO株式会社、株式会社安川電機、
北九州市グリーン成長推進課

「Z世代チャレンジ in 北九州」とは企業から提示されたテーマについて、Z世代が社員と議論を交えながらアイデアを創出し、その実装までを目指すプロジェクトです。5日間のプログラムでアイデアを創出し、最も優れた案を選定。その後は、企業と協働しながら実現に向けた検討を進め、実際の取組として形にしていきました。本プログラムでは、「チャレンジする機会」や「実践を通じた成長の場」を通して、主体性や行動力を育むきっかけづくりを目指しました。

Z世代に出題されたテーマ

TOTO

環境問題への若者の挑戦を世界で一番応援するTOTO水環境基金

環境活動に取り組むNPO等の市民団体が高齢化により減少し、地域での活動の担い手が減っている中、基金を通してより多くの若者の活動を応援するためにはどうしたらよいか?

安川電機

ものづくり日本の新たなDXの在り方

安川電機だからできる、製造業のDXの重要性についてZ世代が関心を持ち、DXに取り組む部門を志すきっかけとなるアイデアとは?

北九州市

世界をリードする北九州市で創造する世代を超えた脱炭素アクション

学生とその親世代が、身近な脱炭素アクションを再認識し、取り組むきっかけと継続するインセンティブを生む新たなアイデアとは?

5日間のアイデアコンテストの流れ

- DAY 1 オリエンテーション
- DAY 2 グループワーク
- DAY 3 中間発表
- DAY 4 グループワーク
- DAY 5 最終発表・決勝

アイスブレイク、テーマ理解、ターゲット設定、懇親会
顧客課題とニーズの深堀、アイデア出し、中間発表準備
企業担当者にアイデアを発表、フィードバック
アイデアのブラッシュアップ、最終発表準備
予選で決勝に進む3チームと、敗者復活で選ばれた1チーム、合計4チームが決勝へ



アイデアコンテスト決勝

予選を勝ち抜いた4チームが、Z世代の独創的なアイデアを披露し、社会実装に向けた期待が高まる決勝となりました。

優勝 北九州市 Cチーム

地球温暖化の影響により猛暑が続く中、「暑さで楽しみを制限されたくない」というZ世代ならではの独自の着眼点で、CO₂吸収量の増加と木陰を増やすことを目的とした植樹と、音楽フェスを組み合わせたアイデアを提案しました。

優勝チームコメント

どうアイデアを収束させていくか、必要な要素だけを残していくかというところが大変でした。初めての人同士で不安でしたが、周りの支えがあって成長できました。自分は生まれも育ちも北九州なので、これからも地域貢献をしていきたいです。



TOTO Bチーム

環境問題に関心はあるが広報活動や資金繰りに悩みを持つ学生団体をターゲットに、優秀団体にはTOTO水環境基金からの活動サポートが得られるビジネスコンテストの実施を提案。若者の環境活動を応援しつつ、若者からの応募増加を達成できるアイデアを提案しました。



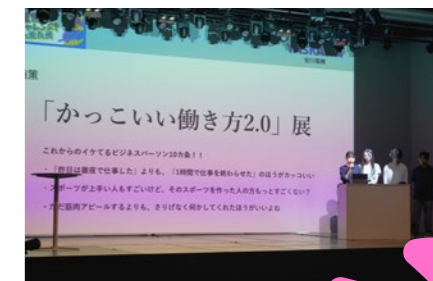
TOTO Cチーム

水環境基金が若者に十分認知されていないという課題に着目し、子ども食堂と環境団体をつなぐ仕組みを提案。子ども食堂・環境団体・TOTOの三者が連携して自然体験や環境活動を行うことで、水環境保全活動への参加を促進するアイデアを提案しました。



安川電機 Cチーム

DXを「世の中の“めんどくさい”を解決する手段」と定義し、効率的でスマートな働き方こそ“カッコいい”というZ世代ならではの価値観をもとに「カッコいい働き方」展を実施することで、DXや製造業に関心を高めるきっかけを作るアイデアを提案しました。



参画企業コメント

若い方の意見を聞く機会はなかなかないので、新鮮な意見やこれまで考えたことなかったような気づきを得る場面が多かったです。私自身も学びにつながるようなプログラムでした。

TOTO

社会課題や企業課題を自分たちだけで考えるのではなく、こういうイベントで他の血を入れてアイデアを出すメリットは多いと思います。(企業側も) どんどん積極的に取り組んで行くといいと思いました。

安川電機

短い期間の中で非常に積極的に本気で取り組んでいただき感銘を受けました。これからの社会を担っていくZ世代の考えを理解できて、彼らの力をすごく感じる事ができました。

北九州市

Z世代のアイデアは、どう実装された？

5日間のプログラムを通して学生たちが考案したアイデアは、有志の学生たちによって、一部調整や修正、再提案を経て実装されました。「アイデアを出して終わり」ではなく、「実現可能性を考え、アクションに落とし込む」という経験をする中で、「一歩踏み出せば、自分でもできる」という自信に繋がるようなプログラムになっています。

TOTO

毎年開催されている「TOTO水環境基金助成先団体交流会」に若年層団体が参加できる特別参加枠を試行的に設け、基金をより身近に感じてもらうとともに、将来的な応募につなげる交流企画を考えました。

実装した結果

全国の若年層団体へヒアリングを行い、当日は3団体を招待しました。応募前段階の若年層団体と基金の最初の接点を創出し、新たなネットワークが形成されました。

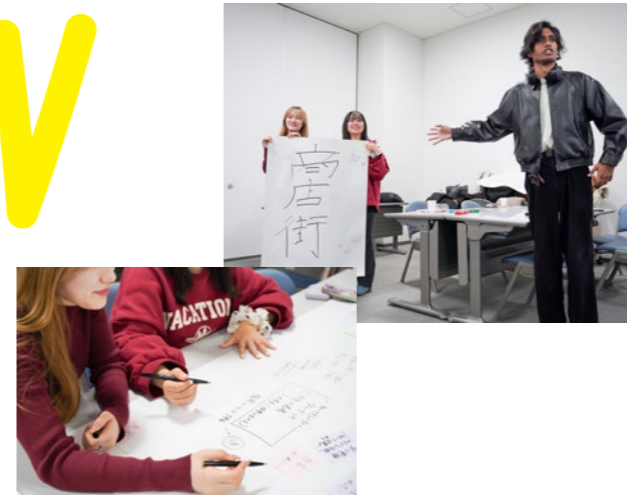


交流会の様子

プログラム全体の振り返りと、今後の学生たちのネットワーク強化のため、振り返り交流会を実施しました。

コンテンツ

- 各担当企業ごとにプログラム全体の振り返り
- プログラムを通して見た北九州市について意見交換

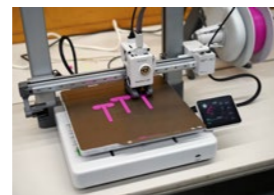


北九州市

親子が対話を通じて、身近な脱炭素行動（環境に配慮した行動）を再認識し、楽しみながら継続的な取組につなげることを目的に、3Dプリンターを活用したサステナブルグッズを制作するワークショップを企画しました。

実装した結果

イベントには募集人数を大きく上回る応募があり、当日は親子約60人が参加しました。



参加した学生のコメント

企 業の社員の方と深く関わることができ、かけがえのない経験となった。実装の過程ではインパクトの大きさだけでなく、地道な努力の積み重ねや、小さくても確実に得られる成果にも価値があると気づき、物事の捉え方が変わったと思う。

TOTO Bチーム
永木さん



自 分の意見ばかりを伝えるのではなく、他のメンバーの意見をうまく取り入れながら、アイデアを収束させていくスキルが必要だと気づく機会になったので、これから社会人になってもこの経験を活かしていきたい。

安川電機 Bチーム
児玉さん



限 られた期間の中でアイデアを実装するにあたり、チームで取り組むことで個人では思いつかない解決策にたどり着ける点に価値を感じた。一方で、優先順位の調整に時間がかかり、短期間で成果を出す難しさも実感した。「Z世代チャレンジ! in 北九州」は、もっと頑張ってみたいという学生のはじめの一歩として非常に有意義な企画だと思った。

北九州市 Aチーム
金くん



本プログラムのダイジェスト動画を視聴できます

右記のQRコードから動画をご視聴いただけます！
参加者の勇姿をぜひご確認ください。

